

令和7年度 兵庫県立伊丹高等学校 学校評価

1 スクールミッション

「誠実 克己 忠恕」の理念のもと、理解力、思考力、協働力、探究力を備え、世界や地域の課題を自分の課題として仲間と一緒に解決に向けて活動するグローバル・リーダーとして、これからの社会を切り拓くことのできる人材を育成する。

2 スクールポリシー

育成をめざす資質・能力に関する方針（グラデュエーション・ポリシー）
① 世界や地域の課題を自分の課題として、解決に向けて探究するとともに、仲間と一緒に活動する人物、グローバル・リーダー（GL）を育成します。
② 座学のみならず、地域等と連携した多彩な活動等に取り組み、将来予測が困難な時代に未来を切り拓くGLに必要な3つの心と4つの力を身に付けます。 3つの心……誠実・克己・忠恕 4つの力……理解力・思考力・協働力・探究力

5 学校関係者評価（総合）

○全体的に、以前に比べ、全教職員が生徒との一体感を感じられる。在校生や保護者の満足度も高く、将来の入学希望者にとっても魅力を感じられる良好な循環が生まれている印象を強く受ける。特に、国際教育に関する取組は高い評価となっており、生徒の関心の高さと学校の積極的な取組がうかがえる。指導から寄り添う、という難しい時代になりましたが、信頼関係の構築こそが一番の鍵であると感じます。だからといって、優しいだけでは無理。子どもたちには、この時代を生き抜く、厳しいことをしっかりと教育してほしい。また、危機意識、危機管理についても、重々教えて、当たり前前かが、当たり前でなくなる怖さを知らない、これからの未来を生き抜くことは出来ない。この怖さをしてほしい。 ○緑窓会といたしましても、事業の見直し等を図り、より一層支援できるよう努めてまいります。 ○人生百年時代、生徒たちが豊かにたくましく生きるために、学校で学んだことを生かし、学校が人との触れ合い、支え合い、高め合い成長できる場になっていただきたい。

3 自己評価

項目ごとに5,4,2,1点の4段階で評価。達成状況は、A…平均4.0以上 B…平均3.0以上4.0未満 C…平均3.0未満。

基本方針	基本的方向	施策	取 組	達成状況			取組状況・改善方策
				取組	昨年比	総合	
予測困難な時代を生き抜く力を育む教育の推進	「確かな学力」の育成	「確かな学力」の育成	1.指導計画の作成及び観点別評価と指導の一体化	A(4.0)	▲ 0.1	B	■探究活動においては教科横断的な取り組みの実践につながっている ■教科・科目の中での探究活動は時間数の関係で、難しいと感じます。
			2.新学習指導要領を踏まえ探究活動を取り入れた授業	B(3.8)	▲ 0.1		
			3.生徒の学習意欲を喚起する指導の実践	B(3.8)	▲ 0.1		
			4.教科等横断的な取り組みの実践	C(2.8)	±0		
		伝統と文化を尊重し グローバル化に対応する国際教育の強化	5.英語4技能試験の活用	A(4.0)	±0	A	■短期留学や国際交流には生徒の関心も高く、サポート体制を作ろうとしている。
			6.海外探究活動・海外語学研修の推進・実施	A(4.4)	±0		
			7.国際交流（姉妹校交流、オンライン活用）の実施	A(4.3)	▽-0.2		
		探究・文理横断・実践的な学びの充実	8.大学模擬授業等、外部人材の積極的な活用	B(3.9)	▽-0.2	B	■大学教員、大学院生、研究所、企業、公共団体との連携により、様々な校外活動を実施している。 ■特色類型、探究活動は十分充実しています。
			9.GLIS類型の活動活性化	A(4.3)	±0		
			10.探究的な学習活動の充実	B(3.6)	▽-0.4		
	「豊かな心」の育成	人間力の育成	11.校則に基づいた校風の醸成	B(3.5)	▲ 0.1	B	■生徒主体の取り組みは各方面にわたって実施されている。 ■生徒の色を壊すことなく、指導してより良い方向に導く。とても困難だと感じさせられました。
			12.生徒会活動の活性化	B(3.5)	▽-0.5		
			13.生徒主体の県伊祭（文化祭）	B(3.9)	▽-0.3		
	「健やかな体」の育成	地域とのつながりの深化	14.地域でのボランティア活動等の推進	B(3.2)	▽-0.1	B	■生徒指導部を中心に自転車のマナーや交通ルールの周知徹底などが行われている。
			15.生徒主体の体育祭・球技大会	B(3.9)	▽-0.3		
		心・技・体の醸成	16.活動方針に基づいた部活動の実施	B(3.8)	▽-0.1		
			17.登下校等の安全確保	B(3.6)	▲ 0.2		
安心・安全で質の高い学びを充実	教職員の資質・能力の向上	教職員の資質・能力の向上	19.研究授業週間等、授業改善の取組	B(3.5)	▽-0.2	B	■ICTや探究など通室校内研修が実施されている。
			20.外部研修への参加・校内研修の実施	B(3.5)	▽-0.1		
			21.1人一台端末利用に向けた活用研究	B(3.7)	▽-0.3		
		教職員の働き方改革の推進	22.校務支援システムの運用	A(4.2)	▽-0.1		
			23.定時退勤日、ノー会議デーの徹底	B(3.1)	▲ 0.1		
	学校の組織力の強化	情報共有	24.情報セキュリティ徹底、情報資産の管理	B(3.7)	▽-0.2	B	■何か問題が発生したとき、情報共有して適切に対応する体制ができています。 ■残業時間が少ないように感じるので良いことだと思われる。ただ、忙しい運動部（陸上、サッカー、野球など）の顧問の先生方の負担が大きいのはどうしても感じる。
			25.校内委員会等の活性化	B(3.5)	▽-0.2		
			26.いじめアンケートによる早期発見・対応	A(4.3)	±0		
		いじめ・不登校への対応	27.地元企業・自治体・大学等との連携	A(4.0)	±0		
			28.PTAと連携したミマモルメの有効活用	A(4.1)	▽-0.1		
自分らしく安心・安全で質の高い学びを充実	学校・家庭・地域との協働による豊かな学びの推進	家庭との協働	29.広報誌「緑樹」、生徒指導部通信の発行	A(4.5)	±0	A	■分掌により温度差はあるが、広報活動はブログ等を通じて積極的に実施されている。
			30.HP・ブログ等の発信	A(4.1)	▲ 0.2		
		地域への情報発信	31.生徒主体のオープンハイスクール	A(4.2)	▲ 0.1		
			32.同窓会・PTAとの参画・協働	B(3.9)	±0		
			33.学校評議員会、学校評価の改革	B(3.9)	▲ 0.1		

6 自己評価への関係者評価

評価項目ごとの評価
○学力については、大きく成長しているのだと感じます。国際的な視野、留学、遊学、なんでも良いと思いますが、当たり前前に英語が話せる環境創りが重要かと思えます。母国語しか話せない日本人、恥だと言う事が当たり前にならないといけなと感じる。 ○学校教育目標がしっかりと教職員に浸透しているのて、高いモチベーションで学校運営が行われている。変化での激しい社会においてさらに先を見通した教育に努めていただきたい。 ○授業改善や学習支援の取組を通して、生徒の基礎的・基本的な学力の定着と主体的な学びの充実が図られていることがうかがえる。今後も生徒の学習意欲を高める授業づくりを進め、確かな学力の育成につながる取組の継続を期待したい。
○いつの時代も人間力が一番重要、AIの発展が、今後加速しますが、人間の判断力こそ重要。地域に貢献する事が重要だと教育をしてほしい。 ○部活動の一環で、伊丹市の行事に参加した生徒の澁刺とした活動が、市民から高い評価を得ました。生徒の自己肯定感や自己有用感が高まると思いました。
○自身をいたわってほしいです。 ○大学教員、大学院生、研究所、企業、公共団体との連携により、様々な校外活動を実施している。 ○特色類型、探究活動は十分充実しています。 ○生徒指導から生徒支援へ、という表現もとても納得感がありました。
○先生は、更新講習がない。我々の建設業、業界免許は、必ず5年に一度の更新講習があります。5年経てば、状況は大きく進化、変化します。是非先生たちの能力を上げるための研修等を多く取り入れないといけないと感じます。○OECD教育・スキル局長は、「教育の質は教師の質を超えられない」と言われている。今後も学び続ける組織であるようにお願いしたい。
○教職員間の情報共有や連携のもと、組織的に教育活動が進められていることが確認できる。今後も協働体制を一層深め、学校全体としての教育力の向上を図ることを期待したい。
○家庭や地域と連携した教育活動が進められ、広報発信も積極的に行われている。生徒の視野を広げる取組の継続を期待したい。 ○ブログ等の更新にご尽力されています。80%近くの保護者が閲覧しており、家庭でのコミュニケーションや学校への関心を高める一助になっていると考えます。 ○緑窓会は、母校の発展に寄与することを目的としており、事業の見直しを図りながら、学校教育活動により一層ご協力をさせていただきたいと考えております。

4 兵庫県教職員資質向上指標による自己点検

5段階で評価したのち、3段階（できている・できていない・わからない）の人数割合を表示。

分野	資産	教員としての資質の向上に関する指標
学習指導	授業実践力・授業改善力	1 学校教育目標や児童生徒の実態を踏まえた年間指導計画を作成し、計画的に授業を進めることができる。
		2 学習指導要領の目標や内容に基づき、児童生徒の実態に応じた授業を設計することができる。
		3 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図り、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくりに取り組むことができる。
		4 評価規準等に基づき、児童生徒の学習状況を把握・評価し、指導方法の改善につなげることができる。
		5 わかる授業づくりに向けて、ICT機器等を活用することができる。
学級・生徒指導	集団を高める力	6 いじめ、不登校などの教育課題の緊急性や重要性を理解し、他の教職員や関係機関と連携しながらその予防・解決に取り組むことができる。
		7 学校教育目標の実現に向け、学級経営案やホームルーム計画の立案・実行・改善ができ、児童生徒が安心して過ごせる学級づくりに取り組むことができる。
	一人一人の能力を高める力	8 児童生徒との適切な距離を保ちながら、生活背景や内面の理解に努め、カウンセリングマインドをもって、児童生徒と接することができる。
		9 保護者や関係機関と連携を図りながら、個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成し、児童生徒等の教育的ニーズに応じた指導・支援を行うことができる。
チーム制で組織を担う	協働性・同僚性	10 「教職員の勤務時間適正化推進プラン」に基づき、児童生徒と向き合う時間の確保と、ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて、計画的に仕事を進めることができる。
		11 児童生徒への指導等に関して、同僚・先輩や管理職等に相談し、指導に生かすことができる。
	組織的対応力	12 校内における自分の役割を認識し、校務分掌を的確かつ効率的に遂行できる。
		13 家庭や地域社会と連携し、開かれた学校づくりに努めている。
資質を高める自己律性	自己管理能力・変革力	14 学校の危機管理マニュアルを理解し、事件や事故、トラブルに適切に対応することができる。
		15 日頃から、ストレスマネジメントに努めるとともに、教員として自覚ある行動をとることができる。
		16 適切な言動を心がけ、児童生徒や保護者等からの信頼確保に努めている。
		17 日々の実践等を振り返り、主体的に自らの教育活動の工夫・改善に努めている。

よくできている まあまあできている	あまりできていない できていない	わからない
90.2%	7.3%	2.4%
87.8%	7.3%	4.9%
85.4%	9.8%	4.9%
85.4%	9.8%	4.9%
85.4%	9.8%	4.9%
95.1%	0.0%	4.9%
87.8%	4.9%	7.3%
92.7%	7.3%	0.0%
78.0%	14.6%	7.3%
82.9%	17.1%	0.0%
95.1%	2.4%	2.4%
92.7%	4.9%	2.4%
73.2%	22.0%	4.9%
87.8%	7.3%	4.9%
90.2%	2.4%	7.3%
92.7%	4.9%	2.4%
87.8%	7.3%	4.9%